

NPBにおける外国人選手による補強の成功要因

Success factors of recruitment by foreign players in NPB

1K10C400 丸山 達也

主査 平田竹男 先生

副査 中村好男 先生

【背景】

現在の日本のプロ野球において補強の方法は①新人選手による補強②自由契約選手による補強－自由契約選手（所属球団から無条件で契約を解消され、どこの球団とも契約出来る選手）③トレード選手による補強－（１）実力が同等の選手同士の交換（２）選手も金銭も伴わない交換、譲渡（３）金銭による交換④FA選手による補強－FA資格を取得した選手を獲得する。⑤外国人選手による補強。以上の５つが存在しているが、その中で外国人選手による補強は４人という出場選手登録の制限があるために特殊である。この外国人選手数を制限するいわゆる「外国人枠」は、戦力の均衡も設置理由の１つであると考えられる。制限された選手の中での効率的な補強は戦力面のみならず球団経営の面においても重要である。今年度のペナントレースにおいても記録を塗り替える活躍をする外国人選手もいる一方で結果を残すことができない選手もいる。球団が外国人選手を補強する際に成功の可否を分ける要因は存在するのか。

【目的】

本研究は、NPBにおける外国人選手による補強に関する成功要因を明らかにする。

【研究手法】

研究手法１ ２００９年～２０１３年に日本のプロ野球１２球団に所属し、出場選手登録された延べ９６人を対象とし、シーズン打撃成績からセイバーメトリクス指標の Wins Above Replacement (WAR) の攻撃に関するものを算出し、年俸や契約年数と比較する。

研究手法２ 外国人選手の前所属球団を調査し、７つのカテゴリに分類し１２球団の選手獲得傾向を割り出す。７つのカテゴリは①MLB②マイナー③NPB（NPBの他球団から移籍）④アジア⑤中南米⑥元NPB（NPB球団から海外リーグを経てNPBに復帰した選手）⑦その他（日本、アメリカ独立リーグ）

【結果】

結果１ 外国人選手による補強の効率を示すために、攻撃１当たりの年俸の調査の結果、最も効率が良い補強をしているといえる球団は、広島で攻撃WAR１当たり２７５３万円であった。一方、効率が最も良くないのは攻撃WAR１当たり９３１８万円の巨人であった。１２球団の外国人選手の平均契約年数は、最も平均契約年数が

長い球団は、東京ヤクルトスワローズの２．２５年で、最も短かった球団は、DeNAで１．２０年であった。

結果２ 外国人選手の前所属球団のカテゴリ別割合はメジャーリーグの選手が３２％で最も多く、次いで３１％のマイナー所属の選手、１８％のNPBの他球団からの移籍選手という結果になり、これら３つが主な移籍元である。カテゴリ別にみた年俸と成績は、NPBとアジア地域のリーグに所属していた選手が攻撃WAR２．３でほぼ同じであったが年俸はNPBから獲得する選手のほうが低額である。MLBとマイナーの選手では攻撃WAR１．７で同じであるが、年俸はMLBの８６７３万円に対し、マイナーは４４１０万円と２倍近い差がついた。

【考察】

日本で好成績を残すことができているのは、日本の他球団と韓国や台湾などアジアのリーグから獲得する選手であった。この２つのカテゴリの選手は日本で成功した選手、日本に近い環境で野球をしてきた選手である。日本の配球や考え方など日本の野球を理解できず対応できず、文化や習慣の面でも苦しむ選手は存在する。成功した選手の例を見てみると、その障壁を乗り越えるための努力が伺える。外国人選手には「助っ人外国人」と冠詞がつくことがあり、その言葉には活躍して当然という世間の意識も存在するのではないか。

【結論】

MLBとマイナーリーグの選手では、活躍度は変わらず、アメリカでの実績が必ずしも日本での活躍に繋がるわけではない。NPBの他球団からの移籍選手やアジア選手が活躍をしていることから、NPBで日本の野球に適応できる選手を獲得することが成功要因であると言える。また、日本の野球に適応できる選手とはストライクゾーンや配球、練習方法、環境など自国のやり方に固執せず、受け入れることが重要である。外国人の補強には、様々な方法が存在するが、獲得するだけでなくその後の結果を出すまでサポートするまでが補強であると考ええる。